

⑤ 教員の勤務実態と意識

5-1 教員の勤務時間

勤務時間は長時間化している。

学校にいる時間は小・中・高校教員のいずれも11時間30分以上。

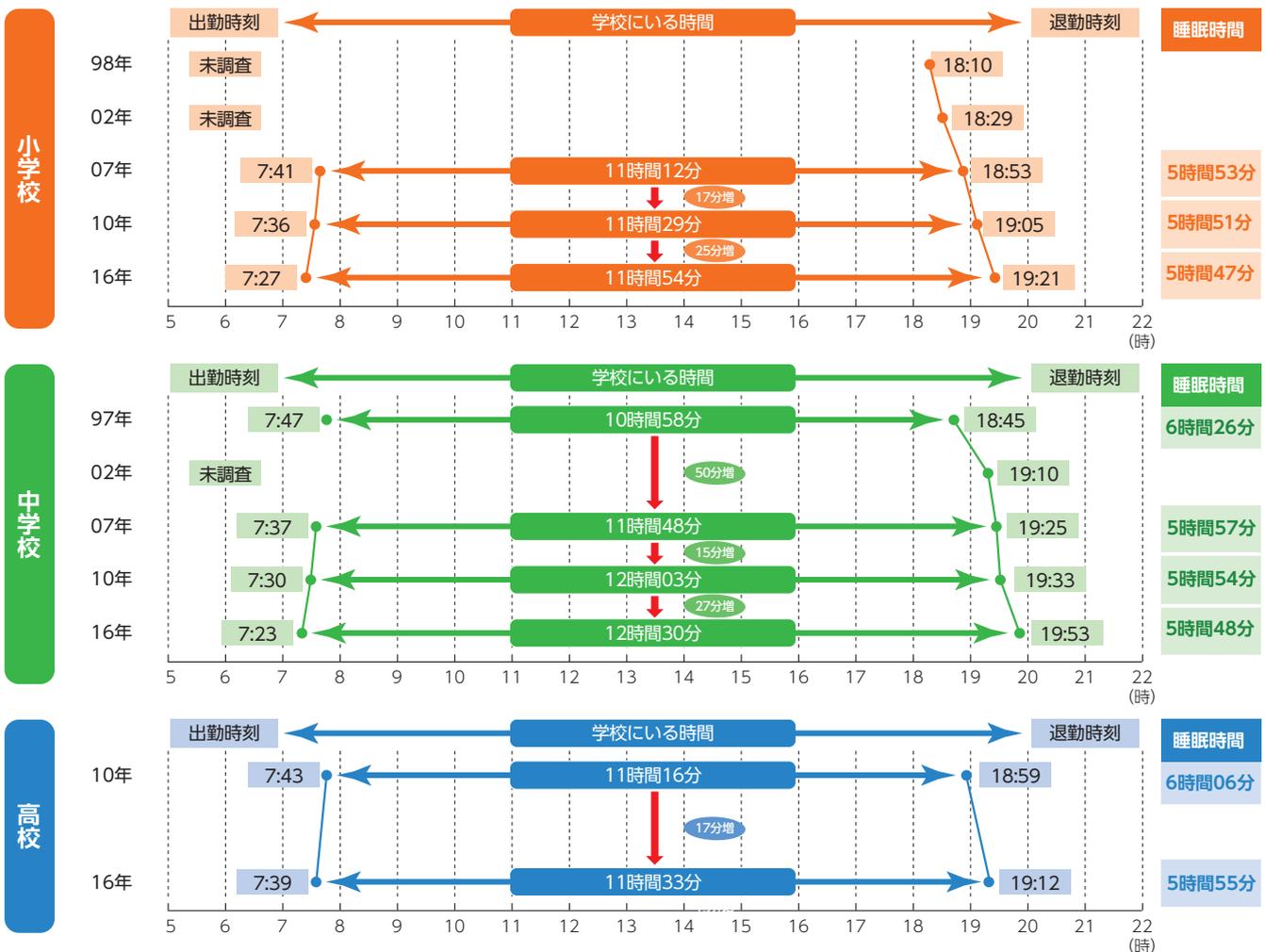
小学校教員の学校にいる時間は11時間54分で10年よりも25分増加、中学校教員は12時間30分で27分の増加、高校教員は11時間33分で17分の増加となっている。小・中・高校教員のいずれも、勤務時間は増加傾向にある。また、年齢層別にみると、若手教員のほうがベテラン教員に比べ、学校にいる時間は1時間以上長い。さらに、同じ年齢区分で経年で比較すると、どの年齢層でも出勤時刻は早まり、退勤時刻は遅くなっていることから、若年齢化だけが影響でなく、多忙化は進んでいるといえる。

Q

授業がある平均的な1日についてうかがいます。

図5-1 出勤時刻・退勤時刻・学校にいる時間・睡眠時間(平均時間、経年比較)

小学校 中学校 高校 教員



注1)「出勤時刻」は、「出勤時刻(学校に着く時刻)は、だいたい午前何時ごろですか」への回答を、「6時以前」を5時30分、「8時半以降」を8時30分のように置き換えて、無回答・不明を除いて平均を算出した。07年調査の「出勤時刻」は、「学校には、始業時刻の何分前に着きますか」への回答を、「始業5分前」を5分前、「それ以上前」を75分前のように置き換えて、無回答・不明を除いて平均を出し、8時15分を始業時刻と仮定して算出した(「教員勤務実態調査(小・中学校)報告書」2007参照)。

注2)「退勤時刻」は「5時以前」を4時30分、「10時以降」を10時のように、「睡眠時間」は「4時間以内」を4時間、「9時間以上」を9時間のように置き換えて、無回答・不明を除いて平均を算出した。「学校にいる時間」は、出勤時刻の平均から退勤時刻の平均までの時間を計算したものの。

表5-1 出勤時刻・退勤時刻・学校にいる時間(平均時間、経年比較、教員年齢別) **中学校** **教員**

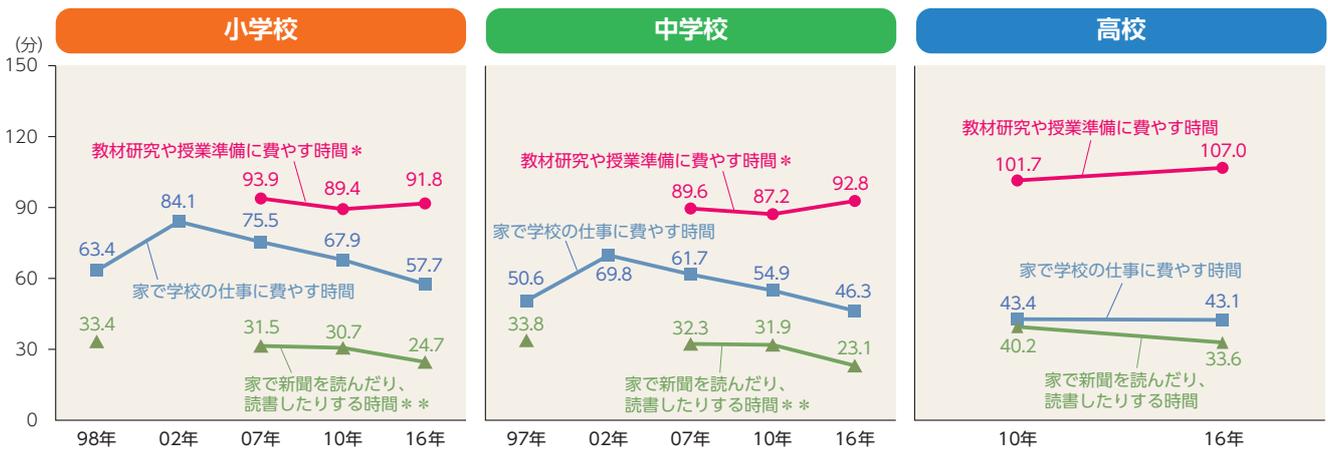
	調査年	25歳以下	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳
出勤時刻	10年	7:22	7:25	7:31	7:30	7:33
	16年	7:16	7:15	7:23	7:27	7:25
退勤時刻	10年	20:18	20:07	19:41	19:24	19:05
	16年	20:27	20:30	19:58	19:43	19:24
学校にいる時間	10年	12時間56分	12時間42分	12時間10分	11時間54分	11時間32分
	16年	13時間11分	13時間15分	12時間35分	12時間16分	11時間59分

注)「出勤時刻」「退勤時刻」「学校にいる時間」は、図5-1と同様に計算したもの。

「家で学校の仕事に費やす時間」は小・中学校教員とも減少傾向。

Q 授業がある平均的な1日についてうかがいます。

図5-2 平日の生活時間(平均時間、経年比較) **小学校** **中学校** **高校** **教員**

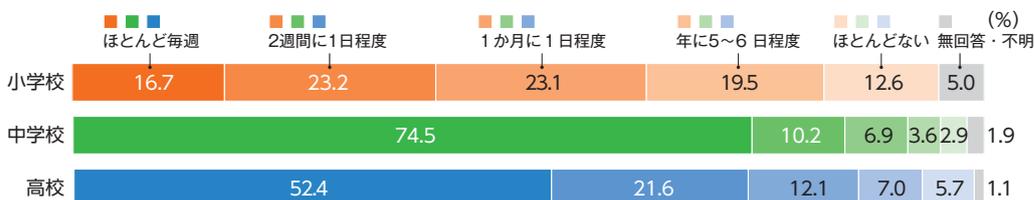


注1)「家で学校の仕事に費やす時間」「家で新聞を読んだり、読書したりする時間」「教材研究や授業準備に費やす時間(学校と家で行う時間の合計)」は、「ほとんどしない」を0分、「3時間以上」を180分のように置き換えて、無回答・不明を除いて平均を算出した。
 注2) *印は、小学校の98年調査、02年調査、中学校の97年調査、02年調査でたずねていない項目。 **印は、小・中学校の02年調査でたずねていない項目。

土日の出勤が「ほとんど毎週」が中学校で74.5%、高校で52.4%。

Q あなたは、どれくらいの頻度で土曜日または日曜日に出勤していますか。学校行事や部活動も含めてお答えください。

図5-3 土日の出勤状況 **小学校** **中学校** **高校** **教員**



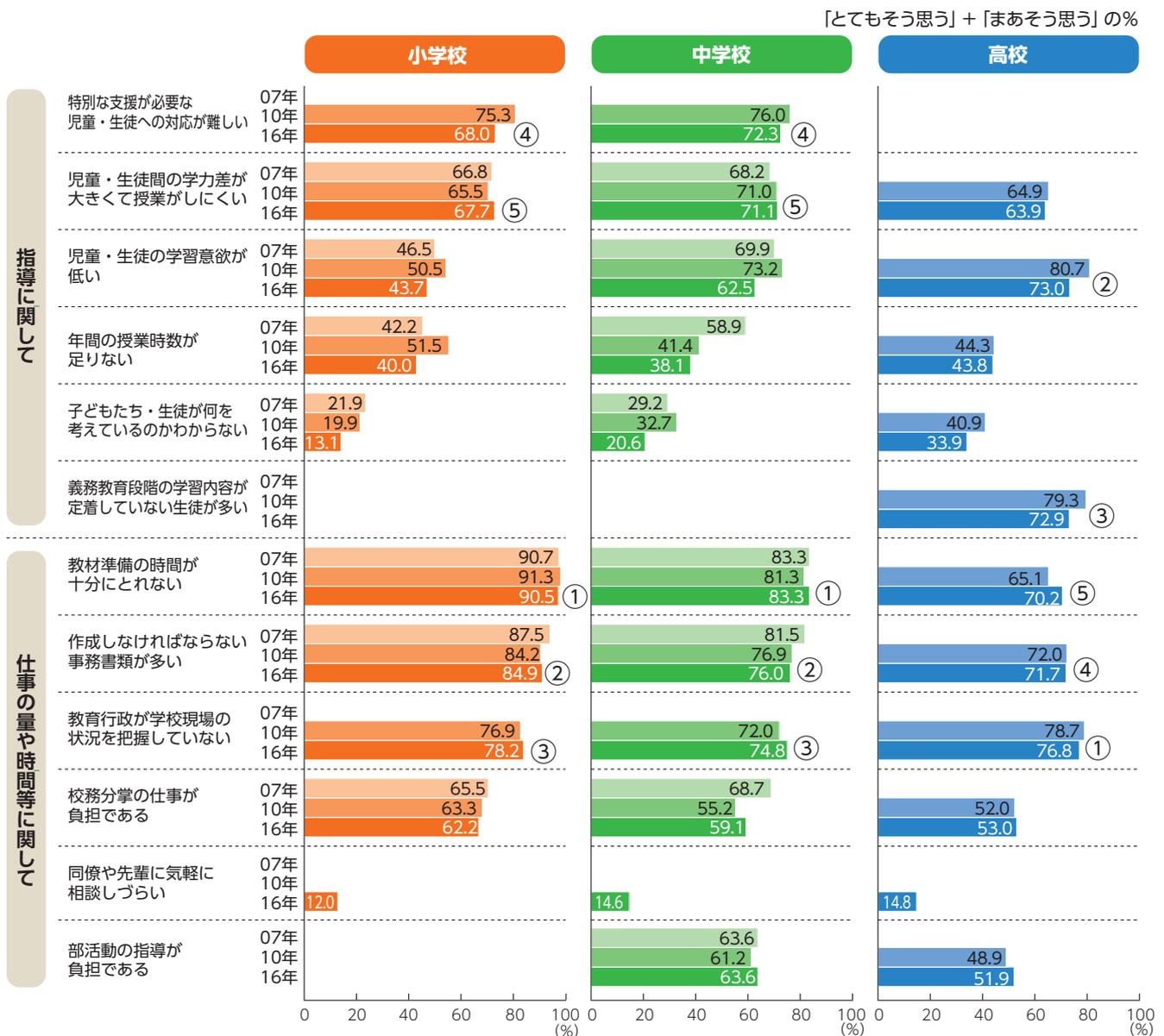
5-2 教員の悩み

10年と悩みの上位項目は変わらず、小・中学校では「教材準備の時間が十分にとれない」が目立つ。

小・中学校教員はともに、「教材準備の時間が十分にとれない」「作成しなければならない事務書類が多い」など日々の忙しさに関する悩みが上位にあがっており、この傾向は10年から変わっていない。一方、高校教員は、「教育行政が学校現場の状況を把握していない」がもっとも高く、次いで、「生徒の学習意欲が低い」「義務教育段階の学習内容が定着していない生徒が多い」が続く。

Q あなたは、次のような悩みをどれくらい感じていますか。

図5-4 教員の悩み(経年比較) **小学校** **中学校** **高校** **教員**



注)小・中・高校のそれぞれ上位5位までを①～⑤と表示している。

5-3 部活動指導

部活動指導を少なくしたいと考える教員が6割、地域社会や民間企業にゆだねるべきだと考える割合はほぼ半数。

中学校教員のうち、部活動の主顧問をしている割合が59.4%、副顧問のみが36.2%である(図5-5)。

部活動への関わり方について「部活動指導を少なくしたい」と考える教員が多く、全体の6割であった。年齢層別には、「25歳以下」では「積極的に取り組みたい」という回答が52.8%と多いが、年齢が上がるとともに減少し、「51～60歳」では32.1%となる。性別には、女性が「少なくしたい」が71.4%であるのに対し男性は48.4%にとどまる(図5-6)。

部活動指導を学校で行うのか否かについて「地域社会や民間企業にゆだねるべきだ」と考える割合は51.2%と、ほぼ半数である。性別には、女性で「ゆだねるべき」が60.0%であるのに対し男性は45.7%と23ポイントの差がみられる(図5-7)。

Q あなたは部活動の顧問をしていますか。

図5-5 部活動の顧問(全体) 中学校 教員



注)主顧問には副顧問を兼務している場合を含む。

Q 部活動指導について、あなたの考えはどちらに近いですか。各ペアについてあなたの考えに近い方の番号に○をつけて下さい。

図5-6 部活動指導に対する意識①(全体・教員年齢別・性別) 中学校 教員

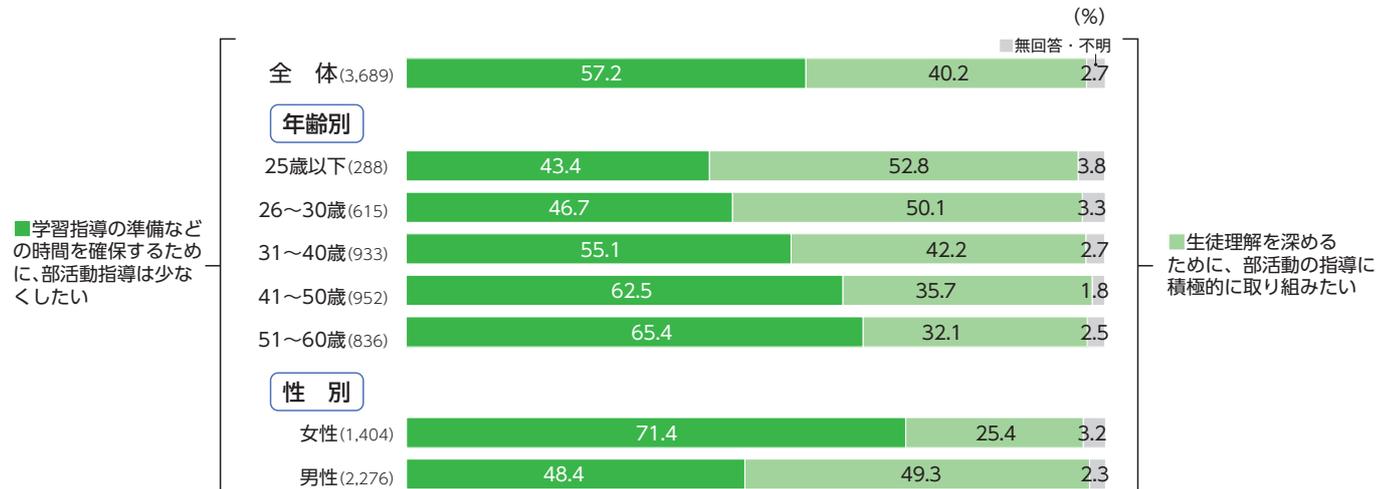
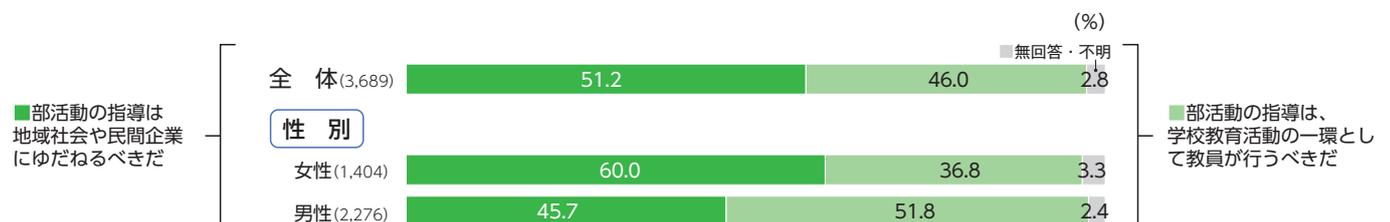


図5-7 部活動指導に対する意識②(全体・性別) 中学校 教員



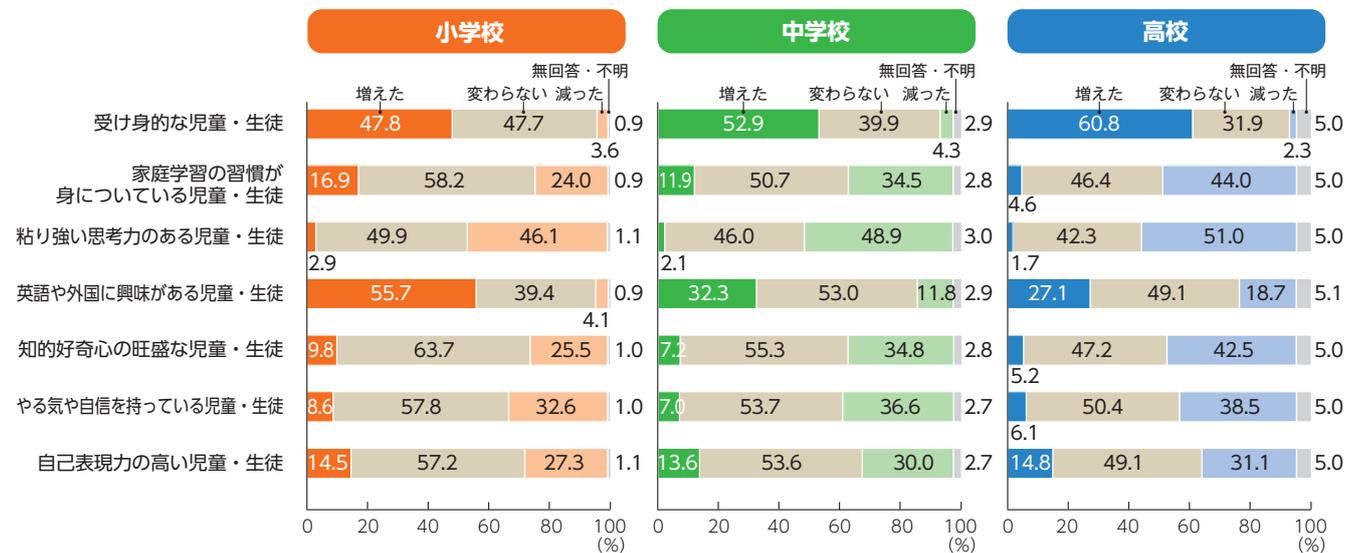
5-4 児童・生徒の様子・変化

小・中・高校とも受け身的な児童・生徒が増えたと感じている教員が多い。

教員に最近の児童・生徒に対する印象をたずねた結果では、「受け身的な児童・生徒」が増えたと感じている教員が小・中学校で5割前後、高校で6割にのぼる。また「粘り強い思考力のある児童・生徒」は小・中・高校とも5割程度が「減った」と感じている。次に、校長に学校の児童・生徒の状況についてたずねたところ、小学校では「学習指導に困難を感じる児童」の割合が、10年には、「2割以上」（「2割くらい」＋「3～4割以上」）が21.4%であったのに対し、16年は35.6%に増加している。

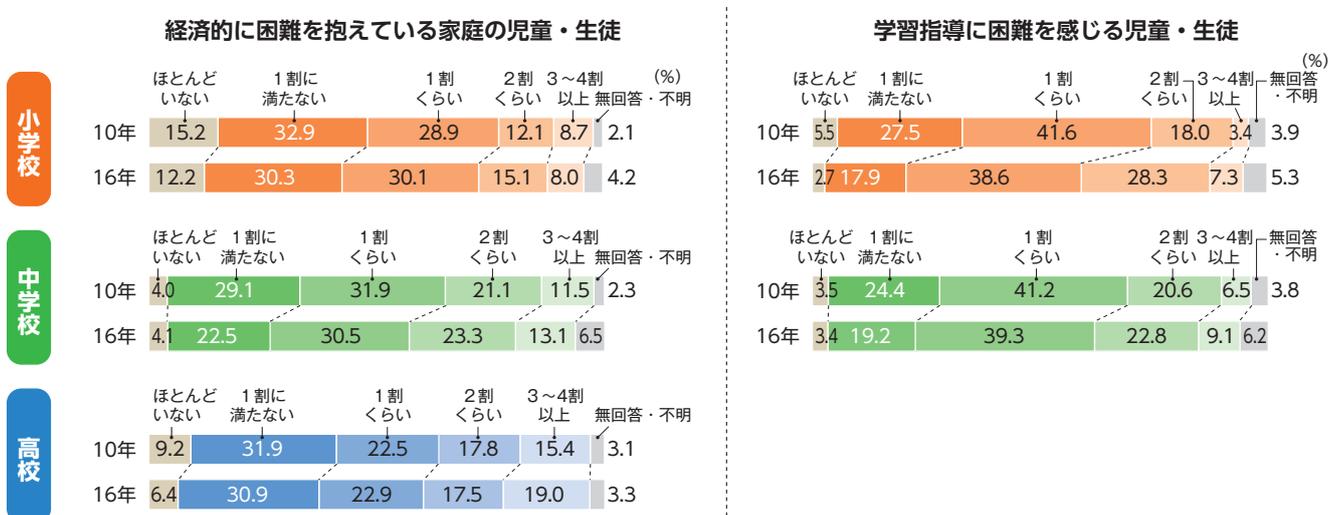
Q 数年前と比べて、最近の児童・生徒はどう変わってきていると思いますか。

図5-8 児童・生徒の変化 **小学校** **中学校** **高校** **教員**



Q 貴校には、次のような児童・生徒がどれくらいいますか。

図5-9 児童・生徒の状況 **小学校** **中学校** **高校** **校長**



注1)「3～4割以上」は、「3～4割くらい」と「5割以上」の合計値。

注2)「学習指導に困難を感じる生徒」は高校にはたずねていない。

5-5 教員の満足度

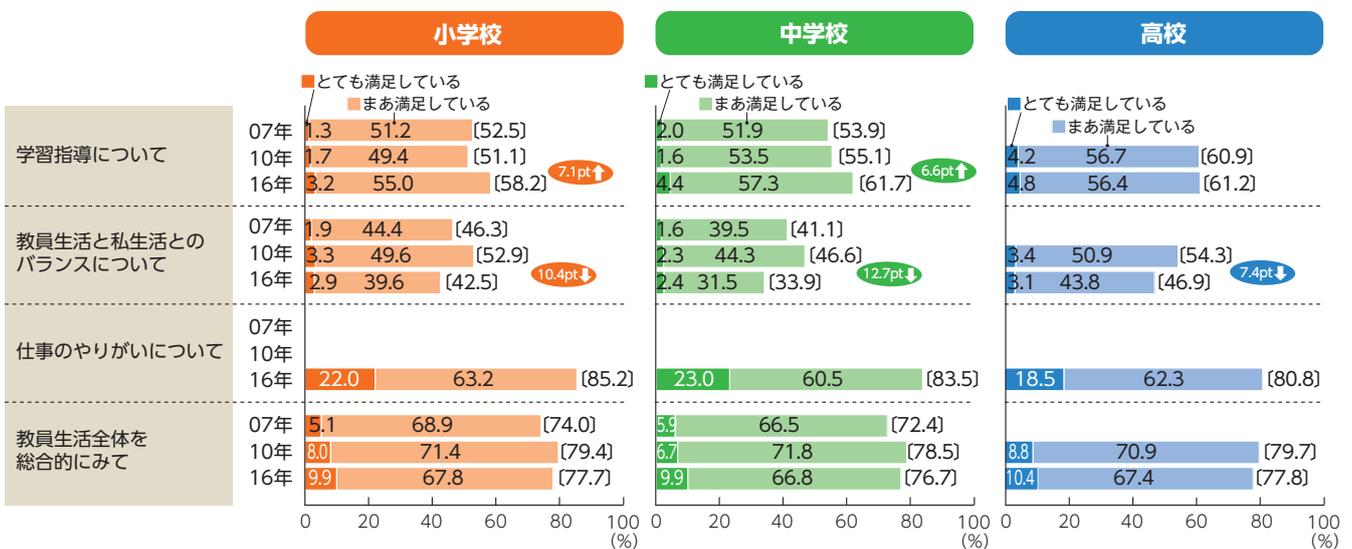
「教員生活と私生活のバランス」は、10年と比べ小・中・高校教員のいずれも減少。

小・中学校教員ともに、「学習指導について」の満足度は10年と比べ、7ポイント程度高まった。一方、小・中・高校教員いずれも、「教員生活と私生活のバランスについて」は、10年比で7～12ポイント程度低くなった。特に、学校段階別で最も満足度が低くなった中学校教員について性別にみると、男性教員に比べ女性教員の満足度が低い。この傾向はどの年齢層も同様である。

Q

あなたは、教員として、次のようなことにどれくらい満足していますか。

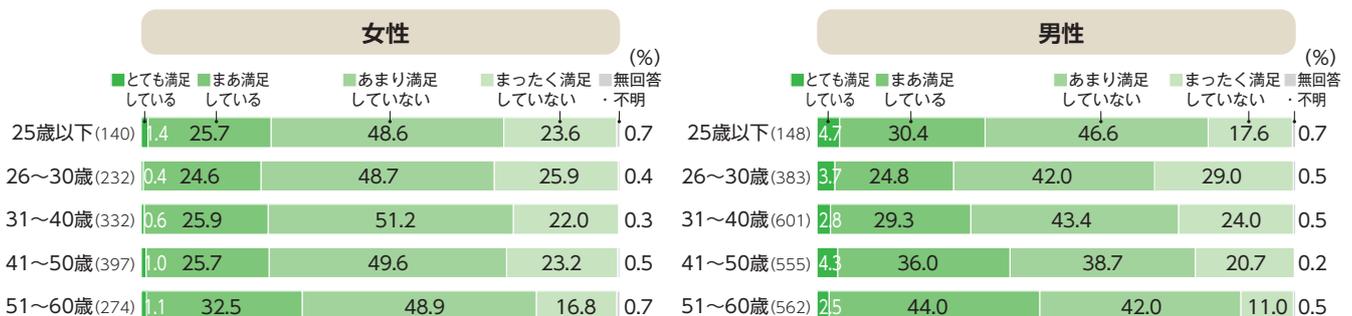
図5-10 教員としての満足度(経年比較) 小学校 中学校 高校 教員



注1) 00.0pt↑ 00.0pt↓ は10年調査比で5ポイント以上の増減のあることを示す。
注2) ()内の値は「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

図5-11 「教員生活と私生活とのバランス」の満足度(性別×教員年齢別) 中学校 教員

「教員生活と私生活とのバランスについて」



5

教員の勤務実態と意識